



ビハーラ山陰

第8号【令和4年3月31日】

発行元
事務局

浄土真宗本願寺派 山陰教区教務所

〒690-0002 島根県松江市大正町443-1 本願寺山陰教堂内
TEL 0852-21-4747 / FAX 0852-27-8351

コロナ禍で身近なビハーラ模索



ビハーラ山陰
会長 三谷卓良

3月福島、宮城、岩手で地震が発生しました。被災された皆さんに、心からお見舞いを申し上げます。

2月には、ロシア連邦がウクライナへ軍事侵攻しました。お念仏をいただくものとして、大経の「兵戈無用(兵隊も武器もいらない)」、観経の「慈心不殺(殺してはならない)」の願いのもと、この軍事侵攻の一刻も早い終結を願っています。

このような地震や軍事侵攻に対して、ビハーラ活動に携わるものとして、それぞれができるときに、できる支援をさせていただきたいと思います。

ビハーラ山陰前号で貧困克服に向けて「フードバンク」に、ご協力をお願いしましたところ、個人や団体から多くの食品等が届けられました。ご協力に厚くお礼を申し上げます。

さて、ビハーラ活動は、人びとの悲しみ、苦しみ、辛さ、苦難、苦悩に寄り添いたいとの願いをもって、老病死を見つめる真宗念仏者の社会実践活動だと思っています。

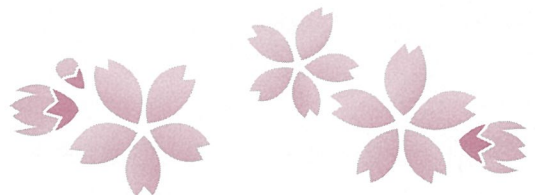
しかし、コロナ禍で、人と人とのつながりが見直される中での活動だからこそ、より大切にしなければなりません。

昨年11月、「第11回ビハーラ活動第4連区集会」が、山口教区担当でオンライン開催され、講師の漢見覚恵氏から、つぎのことを教えていただきました。

「ビハーラ活動というと、とかく終末期の医療現場における、患者さんへの仏教からの積極的なアプローチというイメージが強いかもしれませんが、この活動は、人の様々な苦悩への関わりですから、老・病・死以外の日常生活の中にある様々な『生きづらさ』『生きにくさ』『生き苦しさ』も活動場面となります。これが、身近なビハーラ活動ということです。」

コロナ禍だからこそ、地域で「生きづらさ」「生きにくさ」「生き苦しさ」を持ちながら生活しておられる皆さんに関わる、身近で様々な活動の可能性を、会として模索しています。

一人であっても一人にしない、家庭で、地域で、施設で、病院で、暮らしの中の身近なビハーラ活動を、学びながら実践し、実践しながら学び、自他ともに心豊かに生きる社会を目指して、模索しながら続けていきたいと思っています。





フードバンク活動報告

ビハーラ山陰第7号でもお願いをいたしましたフードバンク活動。山陰教区実践運動 重点プロジェクト〈貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～子どもたちを育むために〉の一環として令和3年4月から始まり、1年が経過しました。

これまでに延べ120を超える個人や団体の方より、約800もの食料品や日用品を教務所にお持ち寄りいただき、山陰両県の社会福祉協議会や、管轄する役所へお渡しいたしました。

「もったいない」から「ありがとう」へ。寺院のお供えや家庭で食べきれない食品等を、食べ物に困っている施設、子ども食堂、コロナ禍で生活の苦しい方々に届け、一人でも多くの人たちが健康で生き生きとした生活を送るために、ビハーラ山陰としても引き続き協力させていただきたいと思っております。皆さまのご支援、ご協力を何卒よろしくお願いいたします。

これまでにお届けしたところ

鳥取県

鳥取県庁 中部総合事務所(倉吉市)、西部総合事務所(米子市)

島根県

安来市、松江市、出雲市、雲南市、大田市、江津市、浜田市、益田市の各社会福祉協議会



お寄せいただいた食品等は、お届けするまでの間、山陰教堂の本堂にお供えしております。



社会福祉協議会等を通じ、必要とされる方々にお届けしています。



2021(令和3)年度 ビハーラ山陰 総会報告

とき 2021(令和3)年6月19日(水)

ところ 本願寺山陰教堂 教化センター
研修室

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により総会のみでの開催となりました。

第11回 ビハーラ活動第4連区集会

と き 2021(令和3)年11月4日(木)

講師 漢見 覚 恵氏
児玉 頼 幸氏

ところ 各教務所・自宅にてオンライン開催

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインでの開催となった第4連区集会。山陰教区からは11名が参加しました。

『ビハーラ活動の可能性』 ～ 子ども食堂に学ぶ ～

出雲組 覚専寺 佐々木 知江三

昨年11月4日、「第11回ビハーラ活動第4連区集会」が山口教区担当のもと開催され、私は自坊よりオンラインにて参加しました。

『日常の中にあるビハーラの種を見出す』をテーマに、～今、私たちにできること～をサブテーマとして、現在宗門でも力を入れている子どもの貧困の克服をめざす子ども食堂にスポットをあて、ビハーラの視点から学ぶという研修会でした。

はじめに、滋賀教区 彦根組 純正寺ご住職、ビハーラ彦根代表の漢見覚恵先生にお話しを頂戴しました。ビハーラ彦根は、2007年にブロック僧侶研修会で「傾聴」についての学習を機縁に、有志で発会したとのこと。現在15名ほどの会員で僧侶とご門徒で活動されているそうです。

お話の中で、貧困には「絶対的貧困」(人間として最低限の生活を営むことができない状態)と、「相対的貧困」(国民の年間所得の中央値の50%に満たない所得水準の人々)があり、日本の相対的貧困率は15.6%、7人に1人が貧困状態にあるとのこと。子どもの貧困がもたらす問題として、学習環境が悪いための能力低下、進学できないことにより非正規雇用となり、低賃金での就労、まさに負の連鎖と言えます。

私は、貧困はその時の貧しさが解決すれば、将来努力によって貧困から抜け出せるのではないかと思いをしていました。過去の貧困は現在に繋がり、現在の貧困は未来に繋がるのです。この事実衝撃を受けました。

ビハーラ彦根の活動は、この連鎖を少しでも改

善すべく、本堂を会場に「子ども食堂」を開催し、食事だけではなく、宿題やゲームなど有意義な時間を過ごせる場所を、継続的に提供しているとのことでした。

引き続き、NPO法人山口せわやきネットワーク ども明日花プロジェクト代表の児玉頼幸先生のお話を拝聴しました。先生は、『明日、子どもたちの花(希望・夢)を咲かせよう!』をモットーに『子ども明日花(あすはな)プロジェクト』を立ち上げ、子ども食堂の運営や居場所づくりなどの事業に取り組んでいらっしゃいます。

朝食を食べずに登校、運動会にお弁当が無い、修学旅行代が払えず参加できない、夏休み期間は給食が無いと痩せる、病院に行くお金がない、等の貧困事例の厳しい現実胸を締め付けられる思いでした。

この度の研修会でお二人のご講師の日々奮闘されている様子を聞き、誰かが誰かのために見返りを求めず行動することは、まさに浄土真宗の教えにかなう「念仏者の生き方」であり、「自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献する」活動であると痛感しました。

未来を担う子どもたちが、少しでも希望を持てる社会になるよう、ビハーラ会員の一人として行動していく決意を新たにできた研修会でした。

合 掌





ビハーラ山陰 活動者募集中

「ビハーラ活動」とは、人々の苦しみや辛さ、苦悩に寄り添い、支援を求めている人々を孤独のなかに置き去りにしないように、その心の不安に共感し、少しでもその苦悩を和らげようとする社会実践活動です。

「ビハーラ山陰」は、2011(平成23)年に再結成され、会員111名で連携を取りながら活動を展開しております。研修会や公開講座等を開催し、医療現場等で活動されている僧侶のお話を直接聞いたり、会員の方がそれぞれの場で施設を訪問し、傾聴等の活動を行っています。

他にも、第4連区研修会や、本山で開催される全国集会に参加しています。

身近なところから実践できるビハーラ活動の輪を一緒に広げていきましょう。詳細は山陰教区教務所内 ビハーラ山陰事務局(電話:0852-21-4747)までお問い合わせください。



第10回ビハーラ第4連区研修会
(平成30年10月 浜田ワシントンホテルプラザにて)



第16回ビハーラ活動全国集会・30周年記念大会に参加(平成30年2月 京都・西本願寺にて)

編集後記

新型コロナウイルス感染症がまだまだ猛威を振るう中、今年度も研修会や公開講座が中止となってしまいました。最近では、オンラインによる会議や研修会も多く開催されるようになり、山口教区引き受けで開催された第4連区の集会も、オンラインとなる等、直接現地に行かずとも参加できるようになりました。メリットも多くあるとは思いますが、まだ慣れていないせいか、どこか集中力に欠けてしまうような気がします。画面越しでご講師の先生のお話を聞き、何より参加者の皆さまと交流ができない面では少し寂しい気もいたします・・・

また、会員の皆さまも活動ができない日々が続いているとお伺いしました。今後は、コロナ禍にあってできる活動についても紹介できればと思っておりますが、何より1日も早く皆さまとお会いできる日を楽しみにしております。
(事務局)